

「高め合い 認め合い 楽しく学び合う 小鹿野小学校」

学校だより



学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 4号 令和2年 6月29日 発行

「たくましく生きていける 小鹿野小の子供たちを 育てましょう！」

校長 坂本 勉

本校の校長室前の廊下に宮沢賢治の有名な詩『雨ニモマケズ』が書かれた額が掲げられているのをご存じですか。その書を眺めながら、ふと、ある詩を思い出しました。

右に載せた詩ですが、誰もが知っている宮沢賢治が自分の生き方を示した有名な詩『雨ニモマケズ』ではなく、それをもとに現代の子供たちの様子を皮肉った『雨ニモアテズ』という詩です。

大事に大事に、過剰なまでに世話を焼かれて過保護に育てられた子供自身が、「こんな子供に育ったのは親のせい。いったいどうしてくれるんだ。」と言っているかのようですね。

全てがそうだという訳ではありませんが、ちょうど自分の子育ての時に目にした詩なので、我が子に照らしてみても、「当たっているなあ」と思うことも多く、反省させられたことを思い出しました。

最近では、子供の数が減り、親が子供にかける期待が大きくなったこともあって、子供の行動に手をかけすぎる傾向が強くなったと言われています。「子供の自主性に任せる」という妙な理屈の子育て放棄ともとれる「放任主義」にも困ったものですが、口を出し過ぎの「過保護、過干渉」になってしまえば、自主性どころか、わがままで傷つきやすく、他に依存する人間を育てかねません。

学校生活でも、子供の安全が第一とされるあまり、ケガをしそうな危険なことを禁止して遠ざけるような事例はありますが、正直、「果たしてこれでよいのだろうか。」と思うことも時々あります。子供同士のケ

ンカにしても、大事に至らないうちに火消しに回ってしまい、子供たちが自分で感じたり、気付いたりしながら、あれこれ考えて解決を図るような経験を摘んでしまっているとも言えるのです。だからと言って、放任した方がよいということではありません。ただ、小さい頃から実生活の中で、苦しみや悲しみ、怒り、不快等を覚え、それらに対処する経験がある程度積み重ねていくことも大切であると思うのです。世の中に出れば厳しい現実が待っているわけですから、子供の歩く道の障害物をいつも綺麗に取り除いては、これから自立して自分の足で歩いていく人間には育ちません。私たち大人は目先のことにとらわれず、かわいい子供の将来を見据えた子育てを意識し、変化の激しい世の中を自分の力でたくましく生きていける子供を育てるために、教師として親として、それぞれの役割と出番を十分に考えていく必要があるのではないかと考えています。

雨ニモアテズ 風ニモアテズ
雪ニモ 夏ノ暑サニモアテズ
ブヨブヨノ体ニ タクサン着コミ
意欲モナク 体力モナク
イツモブツブツ 不満ヲイッテイル
毎日塾ニ追ワレ テレビニ吸イツイテ
遊バズ
朝カラ アクビヲシ 集会ガアレバ
貧血ヲオコシ
アラユルコトヲ 自分ノタメダケ
考エテカエリミズ
作業ハグズグズ 注意散漫スグニアキ
ソシテスグ忘れ
リッパナ家ノ 自分ノ部屋ニ
トジコモツテイテ
東ニ病人アレバ 医者ガ悪イトイイ
西ニ疲レタ母アレバ 養老院ニ行ケトイイ
南ニ死ニソウナ人アレバ 寿命ダトイイ
北ニケンカヤ訴訟(裁判)ガアレバ
ナガメテカカワラズ
日照リノトキハ 冷房ヲツケ
ミンナニ 勉強勉強トイワレ
叱ラレモセズ コワイモノモシラズ
コンナ現代ツ子ニ ダレガシタ